教育学部乳幼児教育コース（教職科目）カリキュラムマップ

養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成
学位授与の方針	①専門的な深い知識の修得に関連する事柄 ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 ・教職に関する専門的な知識・技能 ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 ②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄 ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 ・日本国憲法に関する基本的な理解 ・心身の健康に関する基本的な理解と態度 ・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 ・英語を用いて意思を疎通させる能力 ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力 ③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄 ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 ・教育実践を通した子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ・教員としての社会性や対人関係能力 ・社会貢献への強い意欲 ・学び続ける姿勢

年次	授業科目	到達目標	教育目標１：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標２：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標３：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
1	教職入門Ⅰ	教育をめぐる現状と課題を理解し、大学における学修や研究への展望を明らかにし、教職への意欲を高める。	◎	○	◎
1	教育学概説Ａ(本質)	教育の理念・思想・歴史についての基礎的な知識を身につけ、教育という営みを多角的に理解するとともに、昨今の教育改革の動向や、教育をめぐる現代的な諸問題に対し、積極的に考察しようとする態度と、考察のための具体的な視点を学ぶ。	◎	○	◎
1	教育学概説Ｂ(制度)	教育制度、教育法規に関する基本知識を身につけ、日常の教育活動における「制度」のもつ役割と意義を学習する。また、学校・学級経営の観点から、教育委員会や教員に求められている役割について考察する。	◎	○	◎
1	教育心理学概説	・幼児期・児童期・青年期の子どもの心身の発達過程について学ぶ。 ・発達障がいの子どもの特徴について理解する。 ・特別支援教育に関する基礎知識を獲得する。 ・学習過程の基礎としての動機づけや記憶・思考について理解を深める。	◎	○	◎
1	幼児教育課程論	幼児の主体性を活かす教育課程の編成について理解し、指導計画を作成するための幼児理解、観察、教材研究、環境構成等、保育を実践するための理論的実践的力を身につけることを目指す。	◎	○	◎
1	初等国語科概説	・「国語」に関する理解を深める。	◎	○	◎
1	算数科概説	小学校教員養成段階における力量形成として、算数科に関わる算数の内容（数と計算領域・量と測定領域・図形領域・数量関係領域）を確実に捉えること。算数指導の際に必要となる、児童の学力や授業の看取りに関する素地を培うこと。数学を学ぶ立場から、算数を教える立場への意識転換を図ること。	◎	○	◎
1	初等音楽科概説	教科音楽の授業を担当できる指導力を育成し、様々なジャンルの音楽のよさや美しさを味わう。	◎	○	◎
1	図画工作科概説	図画工作科を指導する上で必要不可欠な基礎的技能と考え方を修得する。	◎	○	◎
1	初等体育科概説	小学校の体育教員としての最も基本的な知識を習得する。 小学校教育の中での体育の意義と役割について理解する。 身体運動を教えることの意味を理解する。	◎	○	◎

1	生活科概説	・生活科の目標及び内容など、学習指導要領にそって教科の特質を学びその意義を理解する。 ・教師は子どもの生活をどうとらえてきたのか、子どもの発達の課題をどこに見いだしたのかを考え、生活科を捉えることができる。 ・生活科の実践には何が求められているのかを考えながら生活科を捉えることができる。	◎	○	◎
1	幼児と健康	人の成長過程における成熟の概念や，身体発育の一般的な推移を理解し，発育発達期のスポーツ（運動・遊び）のあり方について論理的・多面的に思考し，自らの考えや意見を自らの言葉で表現できるようになること	◎	○	◎
1	幼児と人間関係	乳幼児の発達を人間関係と社会生活の側面から教育的に探求する基礎的知識を身に付ける。	◎	○	◎
1	幼児と環境	幼児を取り巻く諸環境について理解し、乳幼児期の発達と環境との関わりを説明できる。	◎	○	◎
1	幼児と言葉	人間にとってことばとはなにかをさまざまな角度から問い直すことをとおして、日常の生活や実践におけることばのありかたを見つめ直す。	◎	○	◎
1	幼児と音楽表現	(１)幼児の音楽表現やその発達について理解する。 (２)幼児の音楽表現を援助するために必要である基礎的な知識や技能を身に付ける。	◎	○	◎
1	幼児と造形表現	幼児の造形実践に必要な知識を体験から習得する。	◎	○	◎
2	教職入門Ⅱ	・教育実習の概要や支援についての理解を深める。 ・参観実習においては支援の実際に触れ留意点をとらえ、教育実習に対する課題意識を明確にする。	◎	○	◎
2	保育内容「健康」	真の子どもの自立のための身体づくりに、今何が問題で何が必要かを、運動、食事、生活習慣、睡眠、体温調節等の項目から学習し理解する。	◎	○	◎
2	保育内容「人間関係」	乳幼児の社会生活と人間関係について，保育者に必要な知識と援助技術の基礎を得る。	◎	○	◎
2	保育内容「環境」	・幼児の成長、発達に決定的に影響する環境の有りようと、幼児と身近な環境との関わりについて、理論的、実践的に理解と考察を深めることを目的とする。特に、幼稚園における環境の在り方について、理解を深めていく。	◎	○	◎
2	保育内容「言葉」	幼児の成長･発達に決定的に影響する環境の在りようと、幼児と身近な環境との関わりについて、理論的・実践的に理解と考察を深めることを目的とする。特に、幼稚園における環境構成のあり方について、理解を深めていく。	◎	○	◎
2	保育内容「表現」	領域「表現」のねらい、内容の理解 保育現場における音楽の意義と指導内容の理解	◎	○	◎
2	保育造形表現	幼児の造形表現について体験し、理解を深める。	◎	○	◎
2	基礎実習	・教育実習の概要や支援についての理解を深める。 ・参観実習においては支援の実際に触れ留意点をとらえ、教育実習に対する課題意識を明確にする。	◎	○	◎
3	特別支援教育基礎論	特別支援教育の理念や意義、および、そのシステムの概要を理解する。 ①障害という状態や概念について理解する。 ②特別支援教育の歴史、理念、システムについての基礎的な事柄を理解する。 ③特別支援教育の対象となる障害の特性および基本的な対応について理解する。 ④障害はないが、特別の教育的ニーズのある子どもへの支援について理解する。	◎	○	◎
3	幼児理解と教育相談	1)幼児理解と教育相談の意義及び園での相談活動の計画・校内体制の整備の必要性を知る。 2)発達障害の概念の理解と各内容の特徴及びインクルーシブ保育の必要性とメリットを説明できる。 3)幼児期のつまずきについて、その種類、主な原因と援助を発達臨床心理学的に説明できる。 4)幼児理解と指導に活きる省察と記録の仕方について知る。 5)個と集団との関係を捉える意義，及び方法を理解している。 6)幼児のつまずきを周囲の幼児との関係，及び他の背景から理解する。 7)幼児と保護者への共感的理解と援助を模擬的に経験し、保育者のカウンセリングマインド(ソーシャルワーク)の姿勢や技法を理解する。	◎	○	◎

3	保育技術実践Ａ	保育に関わる諸実践に関する基本的な事項を理解すると共に毎回の授業における実習を通して保育者に求められている能力の基礎を培うことを目標とする。	◎	○	◎
3	保育技術実践Ｂ	保育に関わる諸実践に関する基本的な事項を理解すると共に毎回の授業における実習を通して保育者に求められている能力の基礎を培うことを目標とする。	◎	○	◎
3	応用実習Ⅰ	・教育実習の体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてのこれからのあり方を考える。 ・これまでに学んだ事柄の要素をつなげる有機的連関の中核として教育実習を捉え、自分なりの教師像を構築する。 ・子どもや教師とのかかわりの中で、子ども理解や支援案の作成の仕方、発話の仕方とその裏側にある熟慮や判断のあり方、支援実践の反省過程における問題点の焦点化やそれらを乗り越える手立ての発見の仕方などについて具体的に学ぶ。	◎	○	◎
4	保育・教職実践演習（幼稚園）	幼稚園・保育所での体験的学びを通して、また大学での学習と併せて保育における実践力の深化と多様な活動内容の習得を目指す。	◎	○	◎

教育学部乳幼児教育コース（専門科目）カリキュラムマップ					
養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	①専門的な深い知識の修得に関連する事柄 ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 ・教職に関する専門的な知識・技能 ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 ②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄 ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 ・日本国憲法に関する基本的な理解 ・心身の健康に関する基本的な理解と態度 ・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 ・英語を用いて意思を疎通させる能力 ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力 ③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄 ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 ・教育実践を通した子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ・教員としての社会性や対人関係能力 ・社会貢献への強い意欲 ・学び続ける姿勢				
年次	授業科目	到達目標	教育目標１：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標２：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標３：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
1	保育音楽実践	保育者に必要なピアノと歌唱の基礎技能の修得	◎	◎	○
1	保育造形実践	幼児の造形実践に必要な知識を体験から習得する。	◎	◎	○
1	保育体育実践	乳幼児期に必要な運動遊びを体験し、その意味を理解し、将来、保育現場に出た時に、適切な運動遊びの指導が出来るようにする。	◎	◎	○
1	乳幼児心理学	乳幼児の発達特徴の心理学的理解し、発達障害と支援の方法を習得する。また、幼児期の心の問題、問題行動の理解と支援方法の理解を深めるとともに、幼児と保護者へのカウンセリングに必要な基礎的技術を習得する。	◎	◎	○
1	子どもの保健Ａ	子どもの保健は日常生活を実践の場とし、子どもの心と身体の健康の保持・増進を目的としている。常に発達する存在である子どもの健康の保持および増進につとめられるよう、生理的・社会的・精神的側面から子どもの特徴や子どもの病気を理解し、子どもの健康を守るための知識を習得することを目的とする。	◎	◎	○
1	衛生学・公衆衛生学Ａ	衛生公衆衛生学の基礎的知識の習得	◎	◎	○

1	社会福祉学概論	社会福祉の全体の領域について幅広く考える素養を身につける。特に「自立」や「当事者参画」はキーワードであり、授業全体で強調すると共に、その意義、昨今の時代背景などを理解してもらいたい。	◎	◎	○
1	子ども家庭福祉論	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解すると共に、児童・家庭福祉制度の発展過程や児童の権利について理解し、教育・支援において必要となる児童・家庭福祉制度について理解する。 また、教育・支援において必要となる児童・家庭福祉に係る福祉・保健サービス、児童・家庭への相談活動の実際について理解する。	◎	◎	○
2	保育表現実践	幼児期の表現活動は多岐に渡った行動によって示さる。個々の子どもの表現を支援の方法を企画し、実践できるようにする。具体的には、一定時間内の部分指導案を作成し、それに基づいた教材研究を行い、さらに子ども（学生）を対象とした実践ができるようにする。	◎	◎	○
2	子どもの保健Ｂ	少子化、核家族化などの社会現象に伴い、子どもがおかれている環境は変化している中で、心と身体の問題、障害のある子どもへの対応、危機管理、健康づくりと地域保健活動などの理解を深め、子どもの健康問題の解決法を習得することを目標とする。	◎	◎	○
2	子どもの食と栄養	家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎的な知識について学ぶ。子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本と内容、特別な配慮の必要な子どもの食と栄養について理解する。	◎	◎	○
2	社会的養護論	施設における自立支援の歴史的な経緯と現代的なニーズの両方を理解し、各施設の目的と機能、サービス内容について理解する。更に、施設における課題の解決方法を理解する	◎	◎	○
2	社会的養護内容実践	教育・支援における養護実践の基本的な視点を身につけると共に、養護実践の理論と実際を具体的な事例をとおして理解を深める。また、個々の発達状況に応じた自立支援と、リービングケア・アフターケアについても理解を深める。	◎	◎	○
2	乳児保育概論	1.乳児保育の意義、歴史的変遷及び役割について理解する。 2.乳児保育実践の現状と課題について理解する。 3.乳児保育の内容と運営体制について理解する。 4.乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	◎	◎	○
2	乳児保育実践	乳児保育を対象とする子どもの発育・発達を理解し、乳児保育の展開や基本的生活習慣の確立の支援法を習得する。また、子育て期の親の育ち、支援のあり方について理解を深める。	◎	◎	○
2	保育実習指導Ｉ	保育実習Ｉに先立ち、事前学習と事後学習のためのものである。事前指導では、保育士として利用児(者)の養護・支援についての技術を習得するために、実習の意義と目的、実習内容と保育者の役割を理解し、実習への意欲や意識を高めることを目標としている。実習後は、実習に対する反省を個人と全体で行い、実習内容を共有して体験の深化を図るとともに、今後の研究課題を探ることを目標とする。	◎	◎	○
2	保育実習ＩＡ（保育所）	乳幼児や保育士とのかかわりを通して、学内で習得した教科全体の知識や技能などを総合的に実践する応用能力を養うこと、保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。	◎	◎	○
3	乳幼児教育学	幼児教育史の代表的教育者たちの思想と実践を学びながら、幼児教育の歴史的展開を捉えることによって、各自の幼児教育観、保育者観を深める。	◎	◎	○
3	障害児保育実践	実際の保育現場の状況を踏まえ、障害をもつ幼児、その保護者を取り巻く現状の基本的な理解を得る。併せて、障害児保育実践の具体的な方法について、講義や事例検討及びグループワーク等を通じて習得する。	◎	◎	○
3	乳幼児音楽学	乳幼児期の音楽的な発達及び特色ある音楽教育について学習し、保育者として必要な乳幼児期の音楽教育についての知識を習得する。併せて、コードネームやその応用、弾き歌いなどの実践に即した技能のレベルアップを行う。	◎	◎	○

3	乳幼児教育研究Ａ	教育者は人を指導しながら自ら学ぶことを通して教育者としての資質や能力を高めていくことが必要である。優れた教育者となるためには、常に研究に努め、それを日々の教育実践に結びつける必要がある。そこでまず乳幼児教育研究法Aでは、国内および海外の基本的な乳幼児教育理論に関する文献を講読しながら、各自の乳幼児教育観を明確なものとし、現代の教育課題への問題意識を深化させることを目指す。	◎	◎	○
3	乳幼児教育研究Ｂ	乳幼児教育に関する国内外の様々な理論・幼児教育方法について学び、多様な理論や手法を幼児教育現場に適用し展開していくための方法を具体的に検討することを通して、理論と実践とを統合させる能力を養う。	◎	◎	○
3	子ども家庭支援論	子ども家庭支援の基礎、家庭の実態、法制度、行政、企業、施設の役割を学ぶ。	◎	◎	○
3	子育て支援	1．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2．　保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解する。	◎	◎	○
3	保育実習ＩＢ（施設）	施設を利用する人々と直接かかわりながら、子どもや利用者の特性、職務内容、施設のあり方等について理解を深める。また、施設は利用児・者にとって「生活の場」であることを踏まえ、これまで学習してきた理論、知識、技術を実践に応用し、援助の理論と実践を深めていく。このような実践を通して、日々を振り返り、今後の課題を明確化するとともに、自らの保育観を構築していくことを目標とする。	◎	◎	○
4	乳幼児教育研究Ｃ	乳幼児教育研究法A・Bでの学びをもとに、教育実践現場において理論と教育実践を結びつける方法論について理解することを目標とする。	◎	◎	○
4	乳幼児教育研究Ｄ	乳幼児教育研究法Cでの学びをもとに、幼児教育のプロセスを把握し、意味づけを行いながら改善策を明確化し、教育者としての幼児観、教育観を構築していくことを目標とする。	◎	◎	○
4	保育実習ⅡＡ（保育所）	保育実習Ⅰ(1)で習得した知識や技術、そして学内で学んだ理論や技能を基に、保育の内容や実践にかかわる知識や技術をさらに深め、子ども観や保育観を確立していくことを目的とする。	◎	◎	○
4	保育実習ⅡＢ（施設）	保育実習Ⅰで習得した知識や技術、また、学内で学んだ理論や技能を踏まえ、実習指導担当者の指導のもとに、全体的支援を行い、自己の支援の評価、フィードバックし、実習内容を深めていくことを目標とする。また、実践を通して、日々を振り返り、今後の課題を明確化するとともに、自らの保育観を構築していくことを目標とする。	◎	◎	○
4	保育実習指導ⅡＡ（保育所）	保育実習の準備をし、実習をスムーズに始めることができるとともに、保育実習ⅠAの経験をもとに、実践的知識と技術の定着を図る・実習後は、実習に対する反省を個人と全体で行い、実習内容を共有して体験の深化を図るとともに、今後の研究課題を探ることを目標とする。	◎	◎	○
4	保育実習指導ⅡＢ（施設）	保育実習の準備をし、実習をスムーズに始めることができるとともに、保育実習ⅠBの経験をもとに、実践的知識と技術の定着を図る・実習後は、実習に対する反省を個人と全体で行い、実習内容を共有して体験の深化を図るとともに、今後の研究課題を探ることを目標とする。	◎	◎	○
4	論文	乳幼児教育研究方での学びをもとに、幼児教育のプロセスを把握し、意味づけを行いながら改善策を明確化し、教育者としての幼児観、教育観を具現化していくことを目標とする。	◎	◎	○